



# AUE News

2011年10月15日

第 26 号



編集・発行  
愛知教育大学広報部会  
TEL 0566-26-2738  
FAX 0566-26-2500

## 目次

- 省エネニュース@愛教大
- 行事予定(10月16-31日)
- トピックス
  - ・ JICA 集団研修開講式
  - ・ 常滑高校保護者が本学見学
  - ・ 第4回ポイ捨て防止アクション
  - ・ 日本人間性心理学会
  - ・ 外国人留学生社会見学
  - ・ 知立「軽トラ市」で落研学生がボランティア
- 陸上部・中野弘幸さんが国体で優勝
- 刈谷「スペース Aqua」4者連絡会
- 折出理事が教職大学院の学生募集を PR
- お知らせ・報告・投稿
  - ・ 戸谷教授が日本化学コミュニケーション賞特別賞
  - ・ 6年一貫教員養成コース主催で金森俊朗氏教育講演会
  - ・ 「Campus Now 第15号」を発行
  - ・ 催しもの案内

## 省エネニュース@愛教大

2011年度愛知教育大学緊急節電対策の啓発活動として、「AUE News」で省エネに関するニュースをお知らせします。今回はNo.8(作成は「省エネワーキンググループ」)です。皆さん、引き続き、節電にご協力ください。

### NO8 変圧器で省エネ!



変電室内変圧器  
鉄心改良型(アモルフラス)乾式変圧器



変電室内変圧器  
鉄心改良型(アモルフラス)乾式変圧器

「鉄心や巻線技術の改良」により高効率化を達成した「トップランナー変圧器」を採用しています!

### 変圧器「省エネ」のポイント

- ①2011年度までに大学構内の変圧器を統合・高効率化し約26万kWh/年(理論値)削減しました。年間電力使用量の約5%、二酸化炭素排出量123 t 程度削減したことになります。



## 行事予定(10/16-31)

- 18日(火) 役員部局長会議 (13:00~ 学長室)
- 19日(水) 財務委員会 (13:30~ 第五会議室)

- 教員人事委員会（15：00～ 第五会議室）  
 23日（日） 保護者懇談会（13：00～ 講堂、第一共通棟ほか）  
 25日（火） 経営協議会（10：00～ KKRホテル名古屋）  
 役員会（14：30～ 学長室）

## トピックス

### JICA 集団研修開講式(10/6)

日本国際協力機構（JICA）集団研修「産業技術教育」コースの開講式が10月6日（木）午前11時30分から、本部棟第三会議室で行われた。

同研修は、日本の進んだ産業技術教育を発展途上の国々の教育関係者に学んでもらい、自国の教育現場で役立ててもらおうのが狙いで、本学では例年、この時期に研修員を受け入れている。今回は、ボツワナ、ミャンマー、パレスチナ、セントクリストファー・ネビス、セント



ルシア、南アフリカ、スリランカ、トルコから計10人が受講。式には、19日に来日予定の1人を除く研修員と、JICA 中部国際センターの奥山明次長、本学の松田正久学長ら30人余が出席した。

北村一浩准教授（技術教育）の開式の辞で始まり、松田学長が「本学では1999年よりこの研修を開講しています。1カ月余の研修で多くを学ばれ、自国の教育の場に生かしていただくことを願っています。10、11月は日本のベストシーズンでもあり、この滞在をぜひとも楽しんでください」などと英語で歓迎のあいさつ。研修員もそれぞれ経歴や現職を自己紹介し、「この機会を用意してくれたJICAや愛知教育大学に感謝します」とお礼を述べた。

式の後には、本部棟玄関前で記念撮影、その後、美術・技術・家政棟へ移動し、研修が始まった。研修期間は、11月18日（金）までで、この間、留学生会館に滞在し、本学での研修、企業などでの産業技術の体験や見学が行われる。

北村一浩准教授（技術教育）の開式の辞で始まり、松田学長が「本学では1999年よりこの研修を開講しています。1カ月余の研修で多くを学ばれ、自国の教育の場に生かしていただくことを願っています。10、11月は日本のベストシーズンでもあり、この滞在をぜひとも楽しんでください」などと英語で歓迎のあいさつ。研修員もそれぞれ経歴や現職を自己紹介し、「この機会を用意してくれたJICAや愛知教育大学に感謝します」とお礼を述べた。



### 常滑高校保護者が本学を見学(10/6)



愛知県立常滑高等学校の保護者40人と教員2人が10月6日（木）午後、本学を訪れた。

バスで到着すると、まずは本部棟前で記念撮影。第五会議室へ移動して、大学の概要や入試、最近の就職状況について総務課、入試課、キャリア支援課の職員から説明を受けた。

その後、学内の施設を見学。附属図書館では情報図書課職員のご案内で、閲覧室やアイ♥スペース、AVスペースなどを見て回った。美術実習棟ではガラス工房を工房の外から見学、周囲に置かれた彫刻や陶芸の作品を目にして、「愛教大で、こんな勉強もしているんですね」と興味深そうに話す保護者の姿も。また、「大学寮







や下宿の設備はありますか」「車での通学はできますか」などの質問には、案内の職員が答えた。

見学を終えた保護者からは「大学は緑が多くて、環境がいい。こんな大学なら通わせたい。愛教大に親しみを感じた」という感想も聞かれ、バスに乗り込んで本学を後にした。

#### 第4回ポイ捨て防止アクション(10/6)

今年4月からスタートした大学構内全面禁煙の完全実施を目指し、たばこの吸い殻を拾い集める「ポイ捨て防止アクション」の第4回目が10月6日(木)午後4時半から、キャンパス内で行われた。

この日の参加は、事前アナウンスが不足したため、これまでより少ない職員9人だったが、約30分の活動で集めた吸い殻は228本。「前回(9月8日)は149本だったが、台風の影響で流されるなどした事情を差し引くと、少し減少したか、ほぼ横ばい状態と推測されます。第1回実施の約850本からすると、約27%にまで大幅に減っているの、学内に全面禁煙が以前よりは浸透しつつあると見てよいでしょう」と総務担当理事・安全衛生委員会の折出健二委員長。

今回、問題になったのは体育館北西角の場所。ロープで進入禁止になっている中に入って吸ったと推測され、しかも砂地の中から多数の吸い殻が見つかった。

折出委員長は「学生の皆さん、ぜひ、禁煙を目指して自己コントロールをしてください。健康のためにも、自己管理のできる社会人になるためにも」と呼び掛けている。

#### 日本人間性心理学会(10/8-10)

10月8日(土)から10日(月)まで「日本人間性心理学会第30回大会」が第一共通棟、第二共通棟を中心とした会場で行われました。当日参加も含め全国から約370人の参加がありました。



「人間性心理学」の特徴は、人間を細分化せず統合的にとらえることを目指すところにあります。そのため、今回の大会ではまず初日に、様々な体験的・理論的なワークショップに一日かけてじっくり取り組みました。「子どもと大人のための<子どもとフォーカシング>」、「ジェンドリン哲学事始め」、「舞踏セラピー」、「人間中心の教育」など九つのワークショップを開き、どれも好評でした。

2日目は研究発表(9割近くは60分間の発表)が約80本あり、充実したものになりました。また、恩田彰先生(東洋大学)による講演「禅と創造性—悟りの心理を中心に—」と、シンポジウム「人間性心理学のこれからの方向性」が開かれました。シンポジストの一人は本学出身の大島利伸先生で、小学校現場での実践をもとに「学校教育と人間性心理学の関わり」という熱のこもった提案をされました。

最終日のキャンベル・パートン先生(イースト・アングリア大学)による基調講演「心理療法の哲学における暗黙という概念—ジェンドリンと仏教—」は実に刺激的な内容で、聴衆に多くの示唆を与えました。さらに最後のシンポジウム「東日本大震災の心のケアと人間性—現地からの叫び—」からは極めて重い現地からの問いが投げかけられました。

多彩で豊かな可能性を秘めた「人間性心理学」の30回という記念すべき大会が本学で開催されたことは大変喜ばしいことでした。また、参加された多くの方から、本学の自然環境の豊かさとともに、学会を裏方として支えてくれた学生たちの資質の素晴



らしさに賛辞をいただいたことは、大会を主催した者として何よりうれしいことでした。

(学校教育特別教授 原口芳明)

### 外国人留学生社会見学(10/9)

本学の国際交流センターでは、10月9日(日)、さわやかな秋晴れの中、外国人留学生の社会見学を実施しました。



この社会見学は、毎年、学生ボランティアの企画・立案により実施しているもので、今回は、「日本の文化を見る」と「日本人や他国からの留学生との交流」を主たる目的に、犬山方面への日帰り旅行として、外国人留学生32人、学生ボランティア14人が参加。宮川秀俊国際交流センター長、稲葉みどり教授と稲吉隆教育創造開発機構運営課長をはじめ4人の事務職員が引率し、明治村と犬山城見学へ出かけました。

午前9時に大学を出発、バスの中では、学生企画によるレクリエーションが行われ、自己紹介と併せて、互いに質問しあう中で、それぞれのお国自慢なども披露され、大いに盛り上がりました。

最初の見学地の明治村では、園内の自由散策と併せてワークショップを行い、ミニ機織りによるコースター作りを楽しみました。



次の犬山城では、昨今の歴史ブームからか、多くの観光客で賑わっており、入城待ち40分という状況でしたが、全員が天守閣に登り、犬山市街はもとより遠くは名古屋、岐阜といった大パノラマを満喫することができました。時間の関係で、残念ながら、城下町散策はできませんでしたが、たまたま来ていた和太鼓集団による演奏も見ることができ、留学生たちは、たくさんの記念写真をカメラに収めていました。

留学生同士や学生ボランティアが触れ合う姿も多く見られ、帰りバスの中でも、バスガイドさんの質問に留学生たちから「楽しかった」という声が上がると、参加学生にとって満足がいく見学旅行になったものと思います。

(教育創造開発機構運営課副課長 前川由光)

### 知立「軽トラ市」で落研学生がボランティア(10/10)

知立市の弘法山遍照院で10月10日(月)に、採れたての野菜などを軽トラックの荷台で販売して町の活性化につなげようという「軽トラ市」が開かれ、本学の落語研究会の部員もボランティアとして参加した。

主催したのは市民ボランティア「バザール知立」で、今回は初の開催。この日は4人の部員が、場内アナウンスやスタンプラリーの受付係を務めた。「2年前から、弘法さんの命日などの来場者用に、学生さんの寄席をお願いしていました。その縁で今回も協力してもらいました」と「バザール知立」代表の久世泰男さん。







1 日で予想を超える 5000 人余が来場。途中、近所の神社の祭りの子ども神輿も会場を通り抜け、催しは大盛況。ボランティアとして参加した一人、伊藤涼祐さん（情報科学コース・4 年）は「今までお世話になったお礼で、今日は駆け付けました。大学では普段、子どもや地域の人とふれあうことがあまりないので、こういう機会に参加できてよかったです」と満足そうだった。

### 陸上部・中野弘幸さん国体で優勝(10/10)

陸上部の中野弘幸さん（大学院教育学研究科保健体育専攻 1 年）が 10 月 10 日（月）、山口県で行われた国体の成人男子 400m で見事、優勝した。

記録は 46 秒 38。7 月に出した自己ベスト 45 秒 97（今季日本 3 位）には及ばなかったものの、世界陸上 1600m リレー代表選手を抑えての優勝。8 月の中国深圳市でのユニバーシアードでの 1600m リレー準優勝、9 月のインカレ優勝に続いての快挙を成し遂げた。

中野さんは「今大会は、国内ランキングの 1 位の選手が欠場したこともあり、タイム以上に優勝を狙っていました。予選通過タイムもトップで決勝に臨んだので、無事に勝つことができホッとしています。今シーズンは 10 月で終わるので、冬季練習が始まるまでにシーズンの疲れをしっかりと取って、来年のロンドン五輪につながるような厳しいトレーニングをする準備をしておこうと考えています。とにかく今は、ゆっくり休みたいですね」と喜びの言葉と共に、来年の五輪を見据えての抱負も語った。

なお、本学では中野さんの活躍を讃えて、19 日（水）に学長表彰を行う予定。写真はユニバーシアード銀メダルを祝って本部棟に掲げられた懸垂幕。



### 刈谷「スペース Aqua」4 者連絡会(10/11)

刈谷駅前の本学の活動拠点「スペース Aqua」の運営を考える 4 者連絡会が 10 月 11 日（火）に「スペース Aqua」で開催された。



本連絡会は、2009 年度に 4 者（刈谷市、刈谷商工会議所、刈谷駅前商店街振興組合、愛知教育大学）による「刈谷市中心市街地活性化のための連携・協力に関する協定書」に基づき、「スペース Aqua」の運営や企画等に関する諸課題を、関係する 4 者が一堂に会して、様々な提案や要望等、忌憚のない意見交換をする場として設けられたもので、4 者が揃っての開催は今回が初めて。

当日は、刈谷市から都市計画課及び商工課の課長をはじめ担当者が 6 人、刈谷商工会議所から専務理事をはじめ 4 人、刈谷駅前商店街振興組合から理事長はじめ 7 人の関係者が出席し、本学からは一宮登特別学長補佐、宇納一公創造科学系学系長、三宅育夫教育研究支援部長はじめ 6 人が出席した。

連絡会は、スペース Aqua 委員長である、刈谷駅前商店街振興組合の鈴木光一副理事長が行い、杉浦幸夫理事長の挨拶に続き、出席者の自己紹介が行われた。

引き続き、本題であるスペース Aqua の運営について、今年度の実施イベントの来場者等の状況報告に続き、関連する商店街の活性化事業の現況について説明があった。



参加者からはスペース Aqua を取り巻く状況に対する様々な観点から、4 者それぞれの立場から多くの意見が出され、スペース Aqua 発展のため今後も 4 者の連携を強化するためこの会を継続していくことを確認した。

最後に、一宮特別学長補佐から 11 月 12 日（土）に実施する「地域連携フォーラム 2011」及び 12 月 11 日（土）に開催する刈谷市との連携公開講座で本学の松田正久学長が講演することを紹介し、会は閉会した。  
(教育創造開発機構運営課課長 稲吉隆)

### 折出理事が教職大学院の学生募集を PR(10/13、14)

教育実践研究科教職実践専攻応用領域の学生、すなわち現職教員の募集拡大の一環として、理事が 10 月 13 日（木）、14 日（金）と、滋賀、石川、富山の各県教育委員会教職員課を訪ね、資料を基に本学の教職大学院の意義と特色、県外から入学された場合のカリキュラムの弾力的運用の可能性などを説明し、「貴県教委の教員のミドルリーダー育成のために本学教職大学院の派遣・推薦をぜひ」と依頼しました。

約 30 分のアポイントメントで訪問したのですが、どの県も熱心に聴いてくださり、富山県ではおよそ 50 分に及んだ程です。事情は、財政面の問題、中堅教員が現場を離れることの困難さなど、共通していましたが、教職大学院の意義や本学の特色については共に強い理解を示していただき、「上司としっかり検討させていただきます」との応答でした。

応対されたある課長補佐から「もう少し若ければ、私自身がチャレンジしたいですね」との話も。最後は、「本県も大量退職を迎えており、私どもとしては、愛知教育大学の学生さんにもぜひ本県の教員としてきていただきたい」と、お返しの依頼も受けました（写真は石川県庁前に立つ筆者）。

なお、長野県教育委員会は、今回の日程では担当者のご都合がつかず、お手紙を添えて同じ資料を郵送しました。三重県教育委員会にも、この件で 21 日（金）に訪問する予定です。

(総務担当理事 折出健二)



### お知らせ・報告・投稿

#### 戸谷教授が日本化学コミュニケーション賞受賞(報告)

2011年はキューリー夫人ノーベル化学賞受賞100周年を記念して、国連、ユネスコ、国際純正応用化学連合が「世界化学年」と定め、国連はじめ各国で記念行事が進められています。統一テーマは“Chemistry-our life, our future”で、1. 化学に対する社会の理解増進、2. 若い世代の化学への興味の喚起、3. 創造的未來への化学者の熱意ある貢献への支援、4. 女性の化学における活躍の場の支援、の四つの目標を掲げて、世界各国が連動して化学に関する啓発・普及活動が行われています。

日本では、世界化学年日本委員会（委員長：野依良治 理化学研究所理事長）の下、化学系各学協会・各種団体が記念行事を企画中で、日本化学連合（会長：御園生誠）では、化学コミュニケーション賞（主催；日本化学連盟、共催：化学工業日報社、協賛：科学技術振興機構）等の取り組みを進めています。この賞は、「わが国において、化学・化学に関する社会への啓発活動、情報発信を通じ、『化学』に対する社会の理解を深めることに貢献した業績」を顕彰する目的で、2011年4月11日（月）より6月30日（木）の間に募集を行い、28件の応募があり、4件（うち2件は化学コミュニケーション賞、2件は審査員特別賞）を選出し表彰されます。本学の戸谷義明教授（理科教育化学分野）は、この内、審査員特別賞を受賞されました。

業績の課題は「化学の普及と大学授業とを両立させる出前化学実験」。選考理由は「教育系大学教員の立場で、子どものみならず幅広い層への出前化学実験などの独自性の高い啓発活動の積極的な実践を評価する。ボランティアの学生と協働することで、コミュニケーター育成の視点も

取り入れた活動である点も評価された」。

なお、表彰式は10月28日（金）午後2時より学術総合センターで開催されます。

（学長 松田正久）

## 6年一貫教員養成コース主催で金森俊朗氏教育講演会(報告)

9月24日（土）、本学第二共通棟で、石川県・北陸学院大学教授の金森俊朗氏を講師に招いた教育講演会が行われた。この講演会は、企画から当日の運営に至るまですべて、本学6年一貫教員養成コースの院生と学生によって行われたものである。学生に加えて、多くの現職教諭を招きたいという学生の思いから、刈谷・名古屋・豊明市の各市教育委員会からの後援にもとづき、広報活動が行われてきた。



講演会当日は、本学、愛知淑徳大学、岐阜聖徳学園大学から合わせて136人の学生・院生、さらには、愛知、岐阜、三重、静岡の各県内の小中学校や大学に勤務する63人の現職教諭、合計199人が参加し、会を盛り上げた。

金森俊朗氏は、「仲間とつながり合ってハッピーに生きようぜ！ーその教師像・教育観とはー」という演題で、38年間の教師人生の中で取り組んできた「命の教育」について、自らの教育観と学

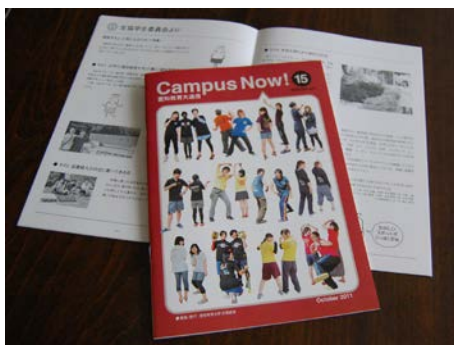
級の子どもたちの姿を交えながら、明快かつ情熱的に語った。参加者は、金森氏の学級や授業の様子を思い描きながら、熱心に講演を聴いた。講演後に行われた質疑応答の時間には、「どうすれば子どもの本音を引き出せるのか」といった多くの質問が出され、金森氏は一つひとつの質問に丁寧に回答した。

講演会終了後、参加者からは、「教師を志すきっかけを与えてくれた金森先生のお話を、直接聴くことができ感激した」(学生)、「長い目で見て、自分の教師人生を支えてくれる貴重なお話を聴くことができた」(小学校教諭)との感想が聞かれた。

(6年一貫教員養成コース3期生代表 柴山 陽祐)

## 「Campus Now 第15号」を発行(お知らせ)

愛知教育大通信「Campus Now 第15号」がこのほど、発行されました。



Campus Now は学生、教職員の結び付き、理解を深めるのを目的に、毎年4月と10月に発行されています。学生と教職員が編集スタッフとなり、「大学ニュース」をはじめ「在学生の活躍」「理事との座談会」「社会人の先輩から愛教大の後輩へ」「新任理事・新任教員の紹介」「部活・サークル案内」など13項目をA5サイズ、25ページで紹介しています。

今回は1万1000部を発行。学生支援課、附属図書館、生協などで学内配布中ですが、23日（日）の保護者懇談会や、11月5日（土）の「科学・ものづくりフェスタ」

の来場者、大学見学に訪れる高校生や保護者にも配布の予定です。

どうぞ、最寄の配布場所で手にとって、ご覧ください。

（広報部会 小林則子）

## 催しもの案内

### ◆「第30回彫刻展」

10月18日（火）～23日（日）10：00～17：30（最終日は16：00）

豊田市美術館 第9展示室



愛知教育大学彫刻研究室、在学生・卒業生による展覧会。  
問い合わせ：豊田市美術館 TEL 0565・34・6610

◆白洲正子主義展（古橋尚コレクション）

10月20日（木）～25日（火）10：00～17：00 入場無料

刈谷駅前商店街「駅前ギャラリー スペースAqua」

同商店街と本学の連携事業「UNOセレクション」第6弾。

古橋氏が白洲正子とかかわった自筆の手紙、原稿、出版書籍、白洲流骨董などを展示。10月22日（土）13：00～14：00「白洲夫妻を語る特別対談『ソアラの縁』」を開催。元トヨタ自動車ソアラ開発責任者の岡田稔弘氏を迎え、古橋氏と白洲夫妻のエピソードを語る。参加無料、事前申し込みが必要。

問い合わせ：TEL 0566・23・2488

◆第3回愛教大アカデミックカフェ

10月20日（木）17：15～19：00 入場無料、一般参加も可能

本部棟3階 第五会議室

講師：中島晴美教授（現代学芸課程造形文化コース）

演題：「やきものの造形」 造形としての「やきもの」について講演。

問い合わせ：秘書広報課広報室 TEL 0566・26・2738

E-mail:kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp

◆科学・ものづくりフェスタ@愛教大

11月5日（土）10：00～16：00 入場無料、事前申し込み不要

第一共通棟など

対象：小・中学生、高校生、教員、一般

「おもしろ科学」「ものづくり教室」「天文台一般公開」その他イベント多数。

ランチタイム・レクチャー（12：30～）は児玉康一教授が「宇宙線と放射能」をテーマに講演。

問い合わせ：教育創造開発機構 科学・ものづくり教育推進センター

TEL 0566・26・2653（平日のみ）

E-mail:waku2@m.auecc.aichi-edu.ac.jp

ホームページ URL <http://www.step.aichi-edu.ac.jp>

## 編集後記

10月前半は3年生の教育実習の真ただ中。ということで、来年6月に発行する「大学案内2013」掲載の教育実習の写真撮影に、附属学校を訪問しました。緊張の面持ちで教壇に立つ実習生を見て、かつての自分の実習体験がよみがえりました。徹夜で作った実習案通りにやらなければと焦り、国語の授業に90分。我慢強く耐えた小学2年の子どもたちには感謝の一言です。撮影中、実習中の“先生”たちに心の中でとエールを送りながら、こちらも初心に戻って「頑張るぞ〜！」と元気をもらいました。（K）

## 投稿のお願い

学内外の出来事（教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など）に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール：[kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp](mailto:kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp) 編集責任者：総務担当理事 折出 健二